

顧客対応から始まった 環境への取り組み

リプロダクト推進室が始動

スペースは都内に本社を置き、全国で商業施設をはじめとした、内装の設計・施工などを展開している。同社は環境負荷低減を目的に、さまざまな取り組みを進めており、その一環で、2023年に「リプロダクト推進室」を立ち上げた。同室は立ち上げの中心となった室長の龍澤知佳氏（リ）・施工時の廃棄物を「環境」の状況について、廃棄物そのものの削減が重要な課題の推進「モノ」や空間の「周目以降」を見据えたものづくりを要とした上で、「空間



モレラ岐阜ではリプロ仕器をアップサイクル

廃棄木材をデザインに活用している

いたことから、PAN ECO®を使った循環型仕器を開発・提案した。PAN ECO®は、廃棄衣類をリサイクルして作ることができるリサイクルボードのことで、天然石のような見た目をしつつも繊維特有の温かみのある素材。同店舗では、既存店舗で廃棄予定となっていた仕器とユニホームを活用した。また、PAN ECO®でつくられた仕器は粉砕することで、繰り返し再利用できる。そのため、環境に優しくサステナブルな店舗が実現できたという。

一方、沖縄県内の菓子小売店では、首里城の廃瓦や沖縄県産の廃瓦などで店内を装飾することで、資源の有効活用だけでなく、沖縄が誇る伝統・文化の発信に貢献した。また、あるスポーツ用品メーカーの店舗で同社では、その意識循環の両立を図るうえで、把握することには

大きな意味があると思います。そのためには、私自身ももっと勉強しなければならぬし、リプロダクト推進室で、多くの業務を通して、多くの社員の共感と行動を促し、リプロの輪を広げたいです」と話す。同社内でこれらの動きが広がり、そこに施工業者、処理業者との連携が加われば、環境課題解決に大きくつながる「三方よし」の実現が期待される。同社の企業理念は「商空間の創造を通じて、豊かな社会の実現に貢献します」だ。龍澤氏は「2周目以降を見据えた空間づくりは、真に豊かな社会の実現にも強くつながるものだと思います」と強調。そのうえで「リプロダクト推進室の活動が、これまで以上に責任を持ったモノづくりを進める一助になれば嬉しいですね」と締めくくった。



「リプロダクト推進室」を立ち上げた。同室は立ち上げの中心となった室長の龍澤知佳氏（リ）・施工時の廃棄物を「環境」の状況について、廃棄物そのものの削減が重要な課題の推進「モノ」や空間の「周目以降」を見据えたものづくりを要とした上で、「空間

リプロダクト推進室は、内装工事で発生する廃棄物やリサイクルの状況について、廃棄物そのものの削減が重要な課題の推進「モノ」や空間の「周目以降」を見据えたものづくりを要とした上で、「空間

リプロダクト推進室は、内装工事で発生する廃棄物やリサイクルの状況について、廃棄物そのものの削減が重要な課題の推進「モノ」や空間の「周目以降」を見据えたものづくりを要とした上で、「空間

リプロダクト推進室は、内装工事で発生する廃棄物やリサイクルの状況について、廃棄物そのものの削減が重要な課題の推進「モノ」や空間の「周目以降」を見据えたものづくりを要とした上で、「空間

リプロダクト推進室は、内装工事で発生する廃棄物やリサイクルの状況について、廃棄物そのものの削減が重要な課題の推進「モノ」や空間の「周目以降」を見据えたものづくりを要とした上で、「空間

リプロダクト推進室は、内装工事で発生する廃棄物やリサイクルの状況について、廃棄物そのものの削減が重要な課題の推進「モノ」や空間の「周目以降」を見据えたものづくりを要とした上で、「空間